

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390700066		
法人名	ケアネットジャパン		
事業所名	ケアネットホーム白金		
所在地	名古屋市昭和区白金1-20-3		
自己評価作成日	平成25年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋市守山区森孝3-1010		
訪問調査日	平成25年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気を大切にします。 利用者一人一人の個別対応をする。生活リハビリやレクリエーションでADLの自立を継続していく。 訪問医療を使い健康かんりをしていく利用者一人一人の個別対応をする。生活リハビリやレクリエーションでADLの自立を継続していく。訪問医療を使い健康管理をしていく</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>JR中央線と東郊通りに囲まれ、古くからの住居・学校・幼稚園が混在し、『三世代』が暮らす地域であることが窺い知れる。町の歴史が古いため地域の結びつきも強く、地域で防災訓練も行われているほど、都心にあっては珍しく、地域の自治が行き届いている。開設前に管理者がホーム前の自転車屋を利用したことがきっかけで町中にその存在を知られ、地域高齢者は「わが事」として認知症についても興味を持ってもらえた。開設時に多くのホームが「地域への浸透」「運営推進会議」の取り組みに苦慮する中、開設のその月に運営推進会議を実施し、地域代表が参加してくれることから、開設に至るまでの地域との良好な関係作りの努力が偲ばれる。管理者は入居者の楽しみを最優先し、行事・レクリエーションを次々と実行し、地域をも巻き込んで楽しみ、『地域の核』の役を担っている。玄関には掲示板を作りホームでの書道教室での地域住民の作品が飾られ、ホームの行事を広報している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は常に業務の把握をし改善すべき点は指摘している。事業所の理念を念頭におき理想に向かい邁進している。	「人としての尊厳と喜びを」を法人理念とし、「寄り添うケアを大切に、愛溢れる日々とともに、いつまでも」をホーム理念としている。その一環として地域に開かれたホームをめざし、ホーム行事は地域情報誌・新聞折り込みで知らせ毎回多数の地域参加がある。社会福祉協議会のボランティアメンバーにも登録している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事を行うときは地域に対し個別訪問を行ったり新聞折り込みで告知する。祭礼や盆踊りに参加した。	開設前にホームの前の自転車やを利用したことがきっかけとなり、地域との連携が生まれた。開設最初の運営推進会議から地域が参加し、ホームを利用した文化教室を地域住民と共に楽しんでいる。ホーム行事は必ず地域の人を招き、隣の児童館からも多くの子供が参加してくれる。地域のうどん屋にはホームの「パート職員募集」のポスターを掲示してもら関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事を開催することで施設内に地域の方を招き施設の生活や利用者の様子をみていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に施設の評価をしていただき普段気づかないこと等をしてきていただいている。	開設したその月からすでに6回の開催が確認されている。高齢者が多く住む地域特性もあり、グループホームへの関心も高く、運営推進会議・地域広報誌を通じ行事には毎回多くの地域参加者がある。運営推進会議で地域代表から「今度は何をやるの？」と聞かれ、ホーム便りに来月の行事予定を掲載し玄関に掲示するようになった。	開設からまだ一年であり、努力が実って初回から地域代表が参加している。保険当事者である行政への呼びかけ・参加への取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上疑問に思ったことは、市町村へ連絡し指導助言をいただいている。	区役所には入居者の生活に役立つ情報を得るために訪問し、先日も市の撞木館での「銭湯展」開催を知り入居者と大挙して出かけた。福祉担当者との打ち合わせ・空室情報等の営業活動を含め区役所を訪問している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠や窓の開閉の抑制はおこなわない。	身体拘束排除宣言を玄関に掲示し日々のケアに心がけている。入居時に、「無言で外出した場合、ホームは責任を負えない」旨の念書が作成されているが、その心配もなく、入居者は外出時必ず「行きます」と言ってくれるので、そと尾行し安全を確保している。買い物に行きたいときには職員が同行している。	階段からの転落防止のため2階は施錠しチャイムを利用している。開設時の職員の入れ替わりも激しく、この一年では実現できなかった項目ではあるが、今後の開錠かつ転落防止の取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に利用者の様子を把握し尊厳を大切にす。利用者に対する接遇に気を付ける		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	常に利用者の状態観察をし利用者の思いを大切にしていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書をかわす際は重要事項説明書をあわせ説明し施設の理解をしていただく		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催や家族訪問時に意見をうかがい職員へ周知をしていく	18名の家族の70%からアンケートが返送されたことから家族の関心の高さが窺い知れる。運営推進会議には必ず入居者・家族も参加している。意見聴取のため職員には「とにかく毎日会話してください」と指示し、日ごろの会話から本人の要望を汲みとっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回のフロア会議の開催と職員に対して個別での面談をおこなって意見をききよい提案をとりいれていく	月一回のフロア会議を開催し、ADL変化など個別に変化があった場合には職員からケアマネジャー・管理者に報告・提案され、介護手技・プラン見直しがされている。ユニットの別なく職員が交流するので、自ら申し出て他ユニットの入居者を把握している職員もいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に2回人事考課を法人としておこなっている 努力しているスタッフを職員からあげさせていく		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の教育支援センターにておこなわれる研修に積極的に参加させる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ区内の他の施設の見学やGH協会に加盟して定期的に勉強会や交流会に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人面談でできるだけ多く情報を集める 家族との連絡を密にして本人の理解をしていく		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の様子を月1回通信で家族に連絡をする 電話や訪問時に状態を伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院からのサマリーや本人面談で本人の健康状態や生活を把握し必要としていることを見極める		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話を重視し利用者の日々の暮らしを大切に する 食事をともにすることで職員と利用者の関係を良好なものにしていく		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時にはあいさつをかわし、利用者の状態や生活の報告をしていく。施設で行事をおこなう際には参加のよびかけをしていく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段使いなれてきた食器やゆのみを入居時に持参していただいたり居室にはできるだけなじみの家具や調度、装飾品をおいていただく	入居者の友人が訪問することもあるがその場合には必ず入居者の現状・認知症について説明し、面会してショックを受けて帰られないよう心配りしている。入居前のアセスメントから、「引きこもり気味解消」という家族の主訴解消に取り組み、今では自発的に帰宅するほどになり、良好な家族関係を築けた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションをおこなうときには声かけをし 普段からともに暮らしているという思いを利用者には自覚していただく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡により退去されて方の通夜に参列しお別れをし、また他の施設へ転居された方を訪問し見舞ったりしていく		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の生活を大切にレクリエーションへの参加は強制しない。時には利用者の要望をうかがい喫茶や外食に行く	「一人一人の意向を大切に」をモットーにし、レクリエーション参加は強制していない。本人の希望を大切に「喫茶店に行きたい」「外食したい」という声に応じている。通常、夜勤はしないケアマネージャーの立場にありながら、「昼間だけでは入居者の思いはわからない」と自ら夜勤を志願し、昼にはわからない不穏・不眠などの現状を自ら把握し、より良いプラン作りに役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味や習い事の話やうかがい、書道や絵手紙をやっていた		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族からお話をうかがい、在宅にみえたときのご様子をうかがい、できるだけこれまでの生活時間や生活パターンの維持につとめる		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	たとえ利用者とお話をし現状の様子、本人の要望をうかがっていくことを職員に推奨している 家族には毎月の通信で様子を伝えたりして協力を依頼している	アセスメント・モニタリングは主に月一回のフロア会議の折に行われている。主訴を汲みとるために管理者は職員に「とにかく会話してください」と支持している。その内容・日々の変化は日報で共有され、特変があればその時点でケアマネージャー・管理者を交えて対応が検討される。3か月に一度計画見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は個別の排泄や食事を記録し、申し送り記録を記入することで1日の施設内の様子や利用者の様子等の情報を共有しサービスの共有化をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望を常に情報収集してそのニーズをもとにしたサービスを提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の団体(町内会、婦人会)に加盟し行事に参加をしている。児童館との連携をとり交流の機会をもうけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に2回の主治医(内科)の往診、皮膚科眼科、歯科の往診を定期的にうけている 訪問看護を週1回うけ医療相談をしている	ホームに入所時に主治医をホーム協力医に変更してもらっている。主治医による定期的な訪問診療の他に、眼科医は月に1回、歯科医は週1回の往診がある。訪問看護師による健康チェックも定期的に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に常に電話で相談し看護師は主治医に連絡をすることで円滑な連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関をきめ利用者の入院があった場合は病院関係者と密に相談や情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針を作成し、同一法人の施設との連携をとって重度化した場合の対応にこころがけている	重度化や終末期の対応は開設してからまだ1年で要員数や教育が十分ではない。同法人内に重度化や終末期に対応できる施設があり、必要時は転院していただく事を契約時に説明し、了解をとっている。訪問診療時の医師が転院先でも診療するので継続した診療を受けること出来る。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時の対応マニュアルを周知し主治医や家族との連携をとっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施をし火災報知器等、器具の使用方法を把握している 地域の防災訓練への参加をしている	去年は6月に消防署員も参加して通報方法や消火器の取り扱いの訓練を行った。その時2階の入所者の避難経路についての助言を受けた。各入居者の処方箋は非常持ち出し用袋に入れてある。地域の防災訓練にはスタッフが参加した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室で一人一人を尊重している 目上の方に対する節度ある声かけをし対応している	契約時に個人情報の対応と写真の掲載の範囲について本人、家族から確認をとり記録に残している。入居者に声かけする時は本人の表情、動作から内面を推測し無理強いをしない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服をご自身に選んでいただいたりおやつや食事のメニューを選んだり、自己決定を大切にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ひとりひとりのペースを大切にし食事の提供時間も状態にあわせて対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の整髪や朝のみだしなみには利用者に声かけしながらおこなっている。おしゃれ心を大切にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	バイキングをしたりお弁当をいっしょに作るなど食事をレクリエーションの一環にすることもある	業者による献立と食材を採っている。調理は原則スタッフが行っているが内容により入居者にも手伝ってもらっている。食事もレクリエーションの一部であるとの考えから献立が変わる事も多い。行事が多くプロの職人による蕎麦やお寿司の事もあった。 弁当や御節作りの時は入所者に調理、盛り付けに参加してもらった	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の水分チェック表を作ったり1日2回のおやつ時に水分をとっていただく。いつでも水分をとっていただけるような体制ができている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアや起床時就寝時には職員が口腔ケアをおこなっている。週1回の歯科衛生士に口腔ケアを依頼している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	退院された方で病院ではオムツを使用されていた方にもトイレを使用していただくよう排泄管理をおこなっている	排尿パターンを把握し声かけ、誘導を行っている。入居者によってはスタッフがドアの傍で待機する事もある。車椅子使用者も立位が出来ればトイレで排泄をしてもらっている。便秘の対応は食事、マッサージ、薬の順番で行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を管理し便秘にならないよう繊維質の食事をとっていただいたりヨーグルト等を食されるような工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しく過ごせるように入浴剤をいれたり会話をしたりしている。入浴日を事前に知らせ率先して入浴を希望されるようにしている	午前中を入浴時間とし当日の当番二人で6名の介助にあたっている。入居者には週に2回入浴してもらっているが入浴時間は各々のペースに合わせている。季節の菖蒲湯や柚子湯、入浴剤も用意している。	要員の関係もあるだろうが入浴回数が定められているのが残念に思われる。入居者のニーズに誠実に対応する姿勢が随所にみられるので入浴も望む時に、望む時間に、対応できる様期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーションの強制をせず個々の生活を大切にしていける。昼寝を必要とされる方には昼間でも居室で休んでいただく		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬確認を2人体制でおこない毎日チェックしている。薬の内容を職員一人一人が理解できるように処方箋をわかりやすいところに保管している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いをしていたり生活リハビリを重視している お手伝いをすることでご自身の役割を確認していただく		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関に外出チェック表を置き外気浴を心がける1ヶ月に1回は外出レクを行いワゴン車を使用しての外出をおこなっている	散歩、買い物、公園、喫茶店とできるだけ外出の機会を作っている。入居者は市内各地から集まっており、近所に馴染みの人や店がなかったが現在は地域に溶け込んでいる。歩行が無理な距離はホームや同法人の車で出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については基本所持をされないように家族に依頼している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用をしていただいたり本人の意思を大切にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースに利用者といっしょに調度品を飾り季節感のある掲示物を壁にはっている	開設2年目でまだ新しい。1階と2階に分かれて居住しており各階に居間兼食堂兼プレイルームと居室がある。2階は陽光が良く入り暖かく明るい。様々な催しは2階で行われている。トイレの手すりは場所により異なった仕様にしてあり、各自が自分にあったトイレを使用している。調理と清掃専門のスタッフがいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲のよい利用者同士が話し合えるような席配置にしている。個々のお気に入りのイスや場所を職員が周知している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や調度を置いている。	個人の好みの物の持ち込みで設えてある。ベット、寝具、シーツ類はレンタルでシーツ交換はスタッフと入居者が手伝えれば一緒に行っている。ホームの行事が多く昼間は居間にいる事が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをとりつけ安全を確保する。危険のない机の配置をする		